

関東平野の 文化的景観と防災文化財

< シリーズ・群馬の災害文化II >

景観が地域防災を教えてくれる

文化的景観は「人と自然の共同作品」

関東平野の大河に寄り添う「風景の国宝」

第1部

講演

13:15~14:45

利根川・烏川合流域の文化的景観と災害文化

玉村町教育委員会生涯学習課図書館係長 中島 直樹

利根川・渡良瀬川合流域の文化的景観と災害文化

元板倉町教育委員会生涯学習課文化財担当 宮田 裕紀枝

東京低地の文化的景観と災害文化 一堤のある風景一

東京都葛飾区教育委員会生涯学習課兼務
産業観光部観光課主査学芸員 谷口 榮

第2部

パネルディスカッション

15:00~16:00

「文化的景観から防災文化財論をはじめよう！」

パネリスト 中島 直樹 宮田 裕紀枝 谷口 榮
コーディネーター 築瀬 大輔

2024
12/21 土 13:00 ~ 16:00

会場 群馬県立女子大学 講堂

参加費 500円 (大学生以下無料)

定員 300名 (事前申し込みが必要です)

※裏面参照

参加特典

本シンポジウムの記録集となる『地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.16 (シリーズ・群馬の災害文化II)』(2025年度刊行予定)を贈呈します。 *配布方法は別途ご案内します。

お申し込み・お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局 連携推進係

〒370-1193

群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

電話：0270-65-8511 (大学代表)

FAX：0270-65-9538

E-mail：gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp

ウェブサイト：https://www.gpwu.ac.jp/



(申し込みフォーム)

関東平野の文化的景観と防災文化財〈シリーズ・群馬の災害文化II〉

文化的景観とは景観を文化として捉える学術概念のひとつで、狭義には2004年(平成16年)の文化財保護法一部改正によって創設された文化財制度を指す。同法において文化的景観は「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と定義されている。以来20年間で、全国で72件、関東地方では、群馬県邑楽郡板倉町の「利根川・渡良瀬川合流域の水場景観」と、東京都葛飾区の「葛飾柴又の文化的景観」の2件が重要文化的景観に選定され、「風景の国宝」として保存・活用が図られている。

文化的景観は人と自然の共同作業によって形成されたものである。「人と自然の関係性」の視点でこの20年を振り返ってみると、特に自然災害の局面において両者の関係性が繰り返し、そして切実に問い続けられてきた。この列島に、地域課題としての災害対応と無関係な場所などもはあり得ない。では、どこにでも普遍的に起

こり得る自然災害と、「人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された」という限りにおいて、潜在的にどこにでも存在し得る文化的景観とは、「人と自然の関係性」という座標上どのような位置にあるのだろうか。

群馬県教育委員会は2005年から06年にかけて、文化的景観の調査・選定業務と並行して、板倉町周辺地域を「水辺の回廊」、佐波郡玉村町周辺地域を「水辺の十字路」と定義し、河川を主要な景観基盤とする両地域の生活・生業、信仰や災害対応に由来する文化的諸要素の調査研究を実施している。このような経緯を踏まえ、本シンポジウムでは、災害と人々の生活・文化の関わりから地域景観の構造と意味を地域学の課題として問い直し、文化的景観に地域資源としての新たな価値を展望しようとするものである。より具体的には「災害防除の意味と機能をもつ文化財」、すなわち「防災文化財」の論議を今日ここから始動することで、「文化的景観20年」の節目を飾る新たな一歩としたい。

講師プロフィール

中島 直樹 なかじま なおき / Naoki Nakajima

玉村町教育委員会生涯学習課図書館係長

1971年 群馬県桐生市生まれ

早稲田大学文学部卒業

日本考古学

玉村町の文化財行政に約30年従事

共著に、『1783天明泥流の記録』(みやま文庫、2016年)、『天明三年浅間山大噴火を語り継ぐ』(雄山閣、2024年)など。

群馬歴史資料継承ネットワーク(ぐんま史料ネット)運営委員、嬭恋郷土資料館市民学芸員、桐生市史編集委員会近世部会調査員。

谷口 榮 たにぐち さかえ / Sakae Taniguchi

東京都葛飾区教育委員会生涯学習課兼務産業観光部観光課 主査学芸員

1961年 東京都葛飾区生まれ

国士舘大学文学部史学地理学科卒業

地域考古学 博士(歴史学)

葛飾区教育委員会社会教育課学芸員、葛飾区郷土と天文の博物館学芸員、葛飾区産業観光部観光課学芸員を経て、2023年より現職

著書に、『東京下町に眠る戦国の城 葛西城』(新泉社、2009年)、『増補改訂版 江戸東京の下町と考古学—地域考古学のすすめ』(雄山閣、2016年)、『東京下町の開発と景観』(古代編・中世編(雄山閣、2018年)、『東京下町の前方後円墳 柴又八幡神社古墳』(新泉社、2020年)、『千ペロの聖地「立石」物語』(新泉社、2021年)、『都市計画家 徳川家康』(MdNコーポレーション、2021年)など。編著に、『吾妻鏡事典』(東京堂出版、2007年)など。

立正大学・明治大学・国学院大学・和洋女子大学兼任講師、NHK高校講座日本史講師を歴任。現在、東京家政大学・都留文科大学・日本大学等の兼任講師、日本考古学協会監事、観光考古学会理事、日本歴史学協会文化保護特別委員、境界協会顧問。

宮田 裕紀枝 みやた ゆきえ / Yukie Miyata

元板倉町教育委員会生涯学習課文化財担当

1952年 茨城県東海村生まれ

國學院大学文学部史学科卒業

日本考古学

板倉町教育委員会文化財担当、東海村文化財保護専門員等を歴任

共編著に、『板倉町町史 別巻九』(板倉町史編さん委員会、1989年)、『水郷のわざと生業』(板倉町民俗研究会、2005年)、『群馬県板倉町 水場の文化的景観保存調査報告書』(板倉町教育委員会、2008年)、『利根川・渡良瀬川合流域に形成された水場景観保存計画』(板倉町教育委員会、2011年)、『久慈川と共に生きる—竹瓦地区の文化的景観—』(水辺のムラ研究会、2019年)、その他埋蔵文化財発掘調査報告書など。東海村文化財保護審議会委員。

築瀬 大輔 やなせ だいすけ / Daisuke Yanase

群馬県立女子大学 教授

1965年 群馬県伊勢崎市生まれ

國學院大学大学院文学研究科博士課程後期修了

日本中世史 博士(歴史学)

群馬県立板倉高等学校教諭、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県立歴史博物館学芸員を経て、2018年より群馬県立女子大学に在職。

著書に『小田原北条氏と越後上杉氏』(吉川弘文館、2022年)、『関東平野の中世』(高志書院、2015年)、『上野の戦国地侍』(みやま文庫、2012年)、共編著に『中世の北関東と京都』(高志書院、2020年)、『北関東の戦国時代』(高志書院、2015年)、共著に『戦国人一上州の150傑—』(上毛新聞社、2021年)など。

群馬県文化財保護審議会専門委員、館林市史編さん専門委員、伊勢崎市史編さん専門委員、群馬歴史資料継承ネットワーク(ぐんま史料ネット)代表。

参加特典

本シンポジウムの記録集となる『地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.16 〈シリーズ・群馬の災害文化II〉(2025年度刊行予定)を贈呈します。

*配布方法は別途ご案内します。

書籍展示販売

会場にて、出演者著書、関連書籍の展示販売を行います。協力：戸田書店様名店

参加申し込み方法(事前予約が必要です)

定員 300名

次のいずれかの方法で、2024年12月19日(木)までにお申し込みください。

① インターネット〈推奨〉

大学ウェブサイトまたは右記二次元コードから申込フォームにアクセスし、氏名・住所・メールアドレス等を入力して参加者登録を行ってください。



② メール〈推奨〉

「氏名」、「住所」、「電話番号」を明記して以下のアドレスまで送信してください。
E-mail: gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp (群馬県立女子大学事務局連携推進係あて)

③ 電話

「氏名」、「住所」、「電話番号」を係員にお伝えください。
◎受付時間/平日9:00から17:00まで ◎電話番号/0270-65-8511(大学代表)

イベントメールリストに登録を!

インターネット、またはメールでお申し込みをされると、群馬学センターイベントメールリストに登録され、群馬県立女子大学や群馬学センター、または後援・協賛団体等が主催する講演会・シンポジウムなどの情報をいち早く受け取ることができます。この機会にぜひ、群馬学センターイベントメールリストにご登録ください

お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局 連携推進係

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1

● TEL / 0270-65-8511 ● FAX / 0270-65-9538

● E-mail / gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp ● ウェブサイト⇒

